

## みんなで考えよう！災害ボランティアシンポジウム～未来へ繋ぐボランティアの力～

**開催目的：**災害発生時には、現場の様々なニーズに対して、柔軟、かつ、迅速に対応するボランティアの活動が復興の大きな力になっています。今回のシンポジウムでは、令和6年能登半島地震における災害ボランティアの活動を振り返るとともに、今後の復興支援のあり方と、近年、注目が高まりつつある「災害中間支援機能」の重要性に関する議論を通じて理解を深めました。

**日 時：**令和8年3月9日（月）13：15～15：45

**会 場：**ハピリンホール

**対象者：**行政職員、県・市町社会福祉協議会職員、NPO・ボランティア団体関係者、ボランティアに関心のある一般県民の方など47名

### 内 容：

＜第1部＞ 1. 講演「能登半島地震被災地の復興におけるボランティア活動について」  
珠洲市社会福祉協議会 神徳 宏紀氏

2. 講演「復興とは何を戻し、何を变えるのか、能登半島地震からの創造的復興」  
（一社）能登官民連携復興センター 杉本 拓哉氏

＜第2部＞ 1. 講演「災害中間支援機能の重要性について」  
内閣府（防災担当）普及・防災教育・NPOボランティア連携担当  
大場 聖人氏

2. パネルディスカッション「災害ボランティア活動における中間支援機能のあり方」

【ファシリテーター】（特非）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク  
事務局長 明城 徹也氏

【パネリスト】  
内閣府 大場 聖人氏

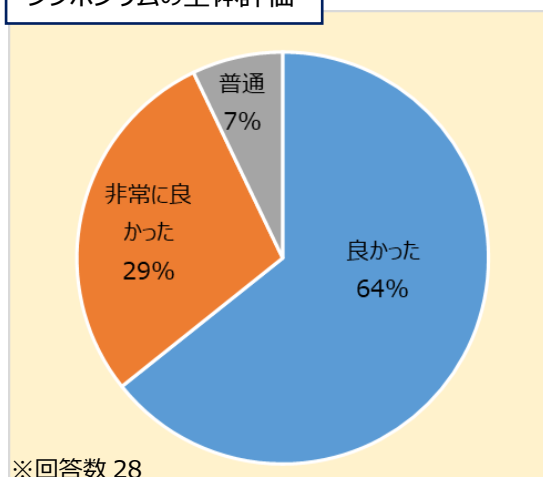
珠洲市社会福祉協議会 神徳 宏紀氏

（特非）まちの防災研究会 理事長 松森 和人氏

県民協働課長 田中 紫穂

### アンケート結果：

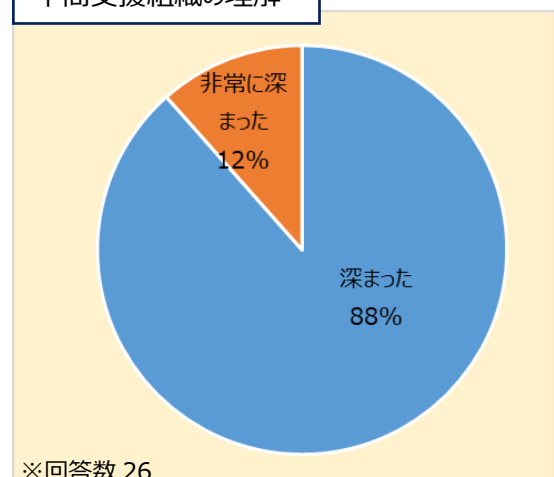
シンポジウムの全体評価



設問：①非常に良かった②良かった③普通

④悪かった⑤非常に悪かった

中間支援組織の理解



設問：①非常に深まった②深まった③深まらなかった

## アンケートの主な意見<抜粋>：

### ●印象に残った内容や今後の業務・活動に役立ちそうだった内容について

- ・能登半島地震において、県域で見ると支援に偏りが出たという事例が参考になった。
- ・能登半島地震における珠洲市での事例を踏まえた話をしていただきイメージが付きやすかった。被災者1人1人によりそった支援が大切であることや災害中間支援組織の重要性が知れた。
- ・平時から協力団体等と関係構築することが大切だとわかった。
- ・災害ボランティアとして作業に入る際、被災者との打ち合わせを行なっても現場では温度差があると気づかせもらった。細部に渡って寄り添って行くことが必要と学んだ。
- ・各ボランティア団体がどのような活動をしているのかを話し合いながら、災害時に被災地の要望にどのように対応できるのか把握し合い、協力して活動することがとても大事だと感じた。
- ・災害中間支援機能を立ち上げるためには経験と知識そしてコミュニケーション力が無いとなかなか難しい。そういう人を育てなければならないと思った。
- ・「顔がみえる」関係とは、単に視覚的に見えていることを意味するのではなく、相手の価値・思い・願いを含めて相互に共有できていることと認識。平時からネットワークや協働の仕組み、各々の実践を通じて互いに理解しあう信頼づくりが肝要と感じた。
- ・今後、県が県内にどのような支援団体があるのかを調査するという事で、最終的に内容を公表して欲しい。
- ・講演にあったフェーズフリーの考え方は実際に被災した方や関連した方でないとできない発想かと思う。フェーズフリーで使えるアイデアを広く周知すべきと思った。
- ・元に戻すだけの復興では解決にならない。元に戻らなくても一つでもプラスになるものを見つけてまちづくりを進められるかが重要と感じた。

### ●ボランティアに関連した研修等で取り上げて欲しいテーマやボランティア活動に関する意見

- ・災害支援に関して、技術系ボランティアと一般ボランティアとの協働作業の検討など実際にやってみるなど現場に即した研修会が必要と感じた。
- ・心のケアについて学ぶ機会があるといいかなと思う。
- ・仮設住宅の方々の孤独・孤立に対する心の支援や寄り添い支援のボランティア研修があると良い。
- ・災害ボランティアの経験やセンター運営の経験がないためケーススタディ的なものがあると有難いと感じた。